

平成20年度
秋田県学習状況調査

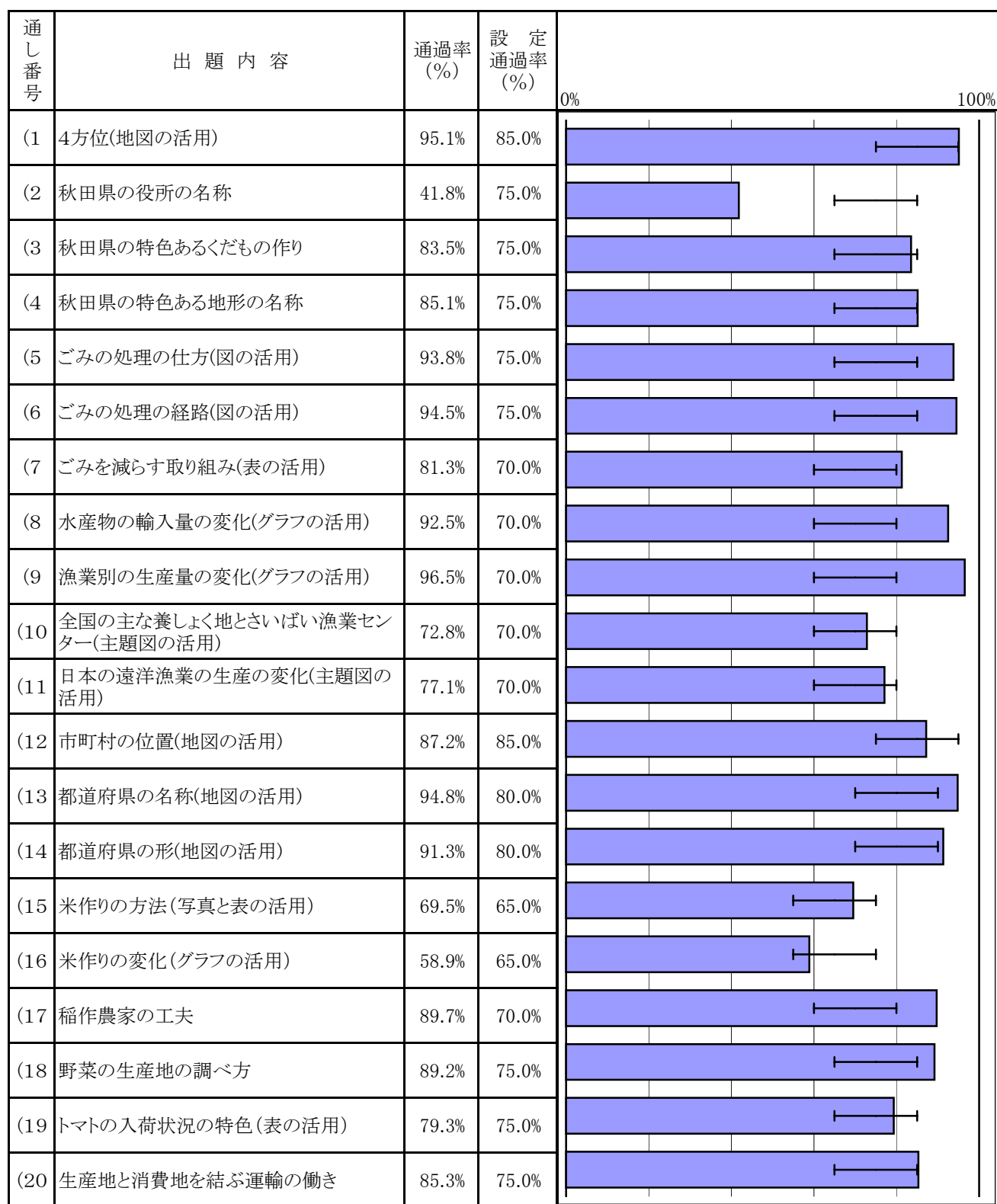
2 結果と考察 社会

平成20年度小学校学習状況調査 第5学年 社会 評価規準と評価の観点

学年	内容	評 価 規 準	通し 番号	観 点		
				思考 ・ 判断	技能 ・ 表現	知識 ・ 理解
第3 ・ 4 学 年	(1) ア	・地図で方角を理解している。	(1)			
	(3) ア	・ごみ処理の仕方の変遷について、資料を通してとらえている。	(5)			
	(3) ア	・ごみ処理のしくみについて、資料を通してとらえている。	(6)			
	(3) イ	・ごみを減らす取り組みについて、資料を通して判断している。	(7)			
	(6) イ	・特色ある地域の基礎的な特徴について理解している。	(2)			
	(6) イ	・特色ある地域の基礎的な産業について資料から読み取っている。	(3)			
	(6) ア	・特色ある地域の基礎的な位置について理解している。	(4)			
第5 学 年	(1) ア	・統計資料から、我が国の水産物の輸入の状況を読み取っている。	(8)			
	(1) イ	・統計資料から、我が国の漁業別の生産量の状況を読み取っている。	(9)			
	(1) イ	・分布図から、我が国の漁業の特徴を読み取っている。	(10)			
	(1) ウ	・資料から、我が国の水産業の現状について、適切に判断している。	(11)			
第3 ・ 6 学 年	目標 (3)	・地図帳のさくいんを活用し、指定された市の場所を調べている。	(12)			
	目標 (3)	・地図帳を活用し、指定された市のある県を調べている。	(13)			
	目標 (3)	・地図帳を活用し、指定された県の形を調べている。	(14)			
第5 学 年	(1) ア	・野菜の生産地を調べる適切な方法を考えている。	(18)			
	(1) イ	・我が国の主な食料生産に関する地図や統計などの基礎的資料を活用して具体的に調べている。	(19)			
	(1) ウ	・1年間の稲作の流れと、農業用機械の用途を理解している。	(15)			
	(1) ウ	・調べたことをもとに、稲作農家の努力や工夫について適切に判断している。	(17)			
	(1) ウ	・稲作に従事している人々の工夫や努力によって生産性が高まっていることを、グラフなどの基礎的資料を活用して具体的に調べている。	(16)			
	(1) ウ	・生産地と消費地を結ぶ運輸の働きを理解している。	(20)			

小学校5年 社会 小問別通過率と設定通過率

平均通過率 83.0%



※ は設定通過率±10%を示している。

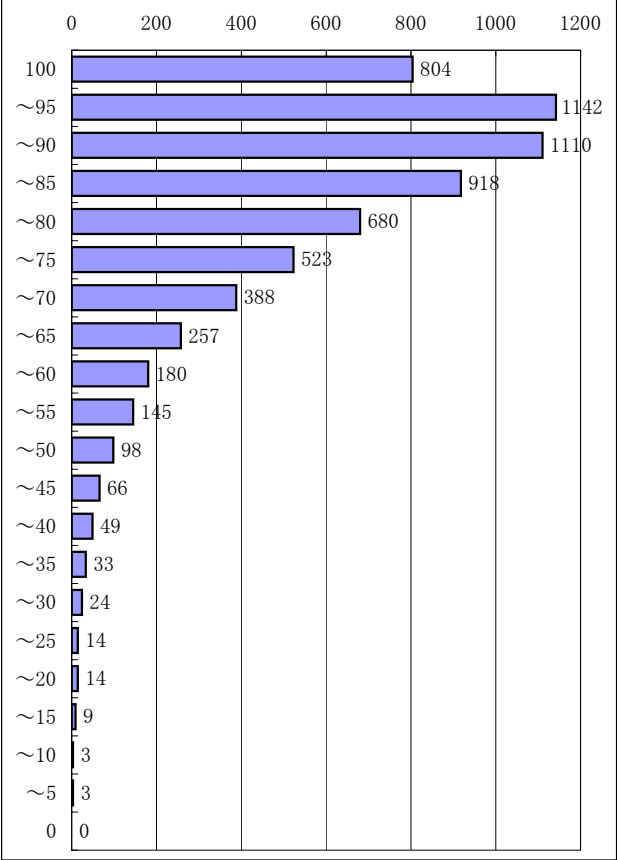
小学校5年 社会

小問別反応率

通し番号	1(通過率)	2(誤答)	3(未記入)	4(未履修)
(1)	95.1%	4.8%	0.2%	0.0%
(2)	41.8%	48.7%	9.5%	0.0%
(3)	83.5%	14.1%	2.4%	0.0%
(4)	85.1%	11.9%	3.0%	0.0%
(5)	93.8%	6.0%	0.2%	0.0%
(6)	94.5%	5.3%	0.2%	0.0%
(7)	81.3%	18.4%	0.3%	0.0%
(8)	92.5%	7.2%	0.3%	0.0%
(9)	96.5%	3.2%	0.3%	0.0%
(10)	72.8%	25.6%	1.6%	0.0%
(11)	77.1%	22.4%	0.4%	0.0%
(12)	87.2%	10.0%	2.8%	0.0%
(13)	94.8%	3.6%	1.6%	0.0%
(14)	91.3%	7.4%	1.3%	0.0%
(15)	69.5%	30.2%	0.3%	0.0%
(16)	58.9%	40.7%	0.4%	0.0%
(17)	89.7%	9.9%	0.4%	0.0%
(18)	89.2%	10.2%	0.6%	0.0%
(19)	79.3%	20.2%	0.5%	0.0%
(20)	85.3%	14.4%	0.3%	0.0%

※4(未履修)を除いた解答類型1～3の合計を分母として
通過率を算出

通過率度数分布グラフ(人)



小問別通過率度数分布表(校)

以上 未満	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)	平均 通過率
100%	35	0	5	7	14	22	2	18	44	1	0	18	38	18	1	2	4	9	1	5	0
95～100%	54	1	7	14	58	45	5	34	49	3	3	16	46	35	2	1	23	21	2	7	1
90～95%	32	2	21	25	32	42	20	42	27	8	10	28	31	30	1	1	37	35	7	27	10
85～90%	5	4	30	30	20	16	15	16	7	10	19	23	9	32	10	4	36	31	25	32	33
80～85%	1	5	28	18	4	2	35	13	0	15	27	22	2	9	17	4	20	14	30	28	43
75～80%	0	5	17	19	0	1	24	4	0	22	15	8	1	2	23	6	6	11	17	14	30
70～75%	0	3	3	9	0	0	13	0	0	19	16	6	1	2	21	14	2	4	23	8	9
65～70%	0	4	7	2	0	0	7	0	0	15	21	2	0	0	16	14	0	1	16	5	1
60～65%	1	3	5	4	0	0	5	0	0	11	11	2	0	0	12	14	0	0	4	2	1
55～60%	0	5	3	0	0	0	0	0	1	8	2	1	0	0	10	14	0	1	2	0	0
50～55%	0	8	1	0	0	0	2	1	0	6	1	0	0	0	10	11	0	0	1	0	0
45～50%	0	4	1	0	0	0	0	0	0	6	2	0	0	0	5	9	0	1	0	0	0
40～45%	0	10	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	13	0	0	0	0	0
35～40%	0	4	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0
30～35%	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0
25～30%	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0
20～25%	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0
15～20%	0	7	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10～15%	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5～10%	0	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0～5%	0	12	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128

※1学年20人以上データを提出した学校

小学校5年 社会 調査結果の考察

(1) 設定通過率との比較

	全 体	観 点 別		
		思考・判断	技能・表現	知識・理解
問 題 数	20	4	11	5
+10%以上	12	3	6	3
±10%内	7	1	5	1
-10%以下	1	0	0	1

(2) 考察

全体について

ア 全体の90%の問題が設定通過率を上回っており、学習状況はおおむね良好である。

成果

ア 地図帳を活用する力が付いている。

課題

ア 複数の資料を活用して、分かったことや考えたことを自分の言葉で表現する力が不十分である。

イ 基礎的な知識の定着をさらに向上させたい。

(3) 今後の指導

ア 複数の資料を活用して、分かったことや考えたことを自分の言葉で表現する力を付けさせるために、「比較」、「関連」などの思考操作を身に付けさせる。

ポイント〔(16を例として)〕

「比較」、「関連」などの思考操作のステップ

具体例

分析

・資料1を読み取り、事象を把握、整理させる。

・考えの具体化

読み取った事実を根拠に考えさせる。

比較、関連

・考えの関連付け

資料1と2の事象を比べ、相違点を明らかにし、関連付けて考えさせる。

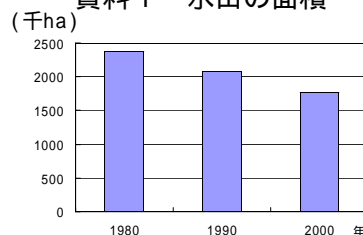
総合

・考えの深化

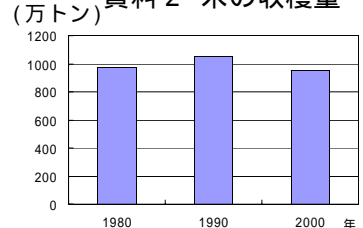
すべての事象をまとめて、総合的に考えさせる。

根拠(資料3)を明確にし、自分の言葉で結論を表現させる。

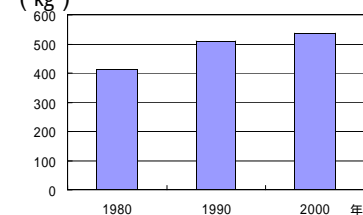
資料1 水田の面積



資料2 米の収穫量



資料3 同じ面積(10a)あたりの米の収穫量 (kg)



児童にとって驚きや疑問など意外性のある事実を含む資料を提示し、課題意識をもてるような社会的事象との出会いを工夫する必要がある。

驚きや疑問などの課題意識を基に、「なぜ～」「どのように～」のような、単元の目標につながる社会的事象の特色や意味について追究する探究型の学習課題を設定することが重要である。

「比較」とは、共通点や違いから、特色や意味を考えることであり、「関連」とは、事象間のつながりから、その間にあるものを発見したり、考えたりすることである。

資料から社会的事象の特色を読み取ったことを文章でまとめる際には、考えの根拠となる資料を載せたり、キーワードを意識して短い文章で記述させたりする活動が大切である。

平成20年度小学校学習状況調査 第6学年 社会 評価規準と評価の観点

学 年	内 容	評 価 規 準	通し 番号	観 点		
				思考 ・ 判断	技能 ・ 表現	知識 ・ 理解
第 5 学 年	(2) ア	・さまざまな工業製品が国民生活を支えていることを理解している。	(2)			
	(2) ア	・我が国の工業生産の様子について問題意識をもち、学習の見通しをもって追究・解決している。	(3)			
	(2) イ	・我が国の各種の工業生産や工業地域の分布などを理解している	(4)			
	(3) ア	・放送、新聞、電信電話などの産業と国民生活とのかかわりを見学、調査したり、各種の基礎的資料を活用したりして具体的に調べている。	(5)			
	(3) イ	・放送（新聞、電信電話）にかかわる仕事に従事している人々の工夫や努力を理解している。	(6)			
	(3) イ	・調べた過程や結果を、目的に応じた方法で表現している。	(7)			
	(4) ア	・国土の自然環境やこれに適応しながら生活している人々の様子、公害から国民の健康や生活環境を守ることの大切さ、森林資源の働きなどについて問題意識をもち、学習の見通しをもって追究・解決している。	(10)			
	(4) ア	・国土の位置、地形や気候の概要を理解している。	(1)			
	(4) イ	・公害と国民の健康や生活環境とのかかわりを、地図その他の基礎的資料を活用して具体的に調べている。	(8)			
第 6 学 年	(4) ウ	・調べたことをもとに国土の環境を守り健康な生活を維持、発展させていくために公害を防止することが大切であることと森林の保護育成に努めていることなどを考え、適切に判断している。	(9)			
	(1) ア	・我が国において農耕が始まったころの人々の生活や社会の様子を理解している。	(11)			
	(1) ア	・調べたことをもとに、古墳が我が国の国家、社会の発展に果たした意味を考え、適切に判断している。	(12)			
	(1) イ	・奈良に大仏がつくられたころの様子について、適切な資料を選択、活用して調べている。	(13)			
	(1) イ	・天皇を中心とした政治が、仏教とつながりながら確立されたことを理解している。	(14)			
	(1) ウ	・今日の生活文化に直結する要素をもつ室町文化について、適切に判断している。	(15)			
	(1) エ	・織田信長が戦国の世の統一に果たした役割を考え、適切に判断している。	(16)			
	(1) エ	・戦国の世が統一されたことを理解している。	(17)			
	(1) オ	・江戸幕府の始まりについて、文章資料や歴史地図などの基礎的資料を活用して調べている。	(18)			
第 6 学 年	(1) オ	・大名行列を調べ、徳川家光の時代に確立された参勤交代について、その意図を適切に判断している。	(19)			
	(1) オ	・資料をもとに、江戸幕府がだれを中心に支配体制を確立していったかを考えている。	(20)			

通し 番号	出 題 内 容	通過率 (%)	設 定 通過率 (%)	0%100%
(1)	都道府県の位置	88.7%	75.0%	
(2)	日常生活と工業製品	84.8%	75.0%	
(3)	自動車工場で働く人々の工夫	86.0%	80.0%	
(4)	工業地域の分布(分布図の活用)	83.2%	80.0%	
(5)	通信産業と国民生活のかかわり(グラフの活用)	80.2%	75.0%	
(6)	放送局の仕事	67.3%	60.0%	
(7)	ニュース番組に関わる人々の努力や工夫	82.2%	75.0%	
(8)	公害の発生と防止(年表の活用)	80.5%	75.0%	
(9)	公害の発生と防止(年表の活用)	79.2%	70.0%	
(10)	日本の国土の位置や形, 特色	65.5%	65.0%	
(11)	小さなくにの成り立ち	91.6%	80.0%	
(12)	古墳がつくられた意味	61.1%	70.0%	
(13)	奈良の大仏がつくられた意味(年表の活用)	65.9%	70.0%	
(14)	大仏をつくることを命じた人物名	86.4%	75.0%	
(15)	室町に幕府がおかれていたころの文化の特色	64.9%	70.0%	
(16)	信長, 秀吉, 家康の動き	63.6%	65.0%	
(17)	長篠の戦いのころにキリスト教を日本に伝えた人物名	89.9%	80.0%	
(18)	大名の種類と配置の特色(分布図の活用)	73.3%	65.0%	
(19)	参勤交代の目的	75.9%	75.0%	
(20)	江戸幕府のしくみ	74.1%	70.0%	

※ は設定通過率±10%を示している。

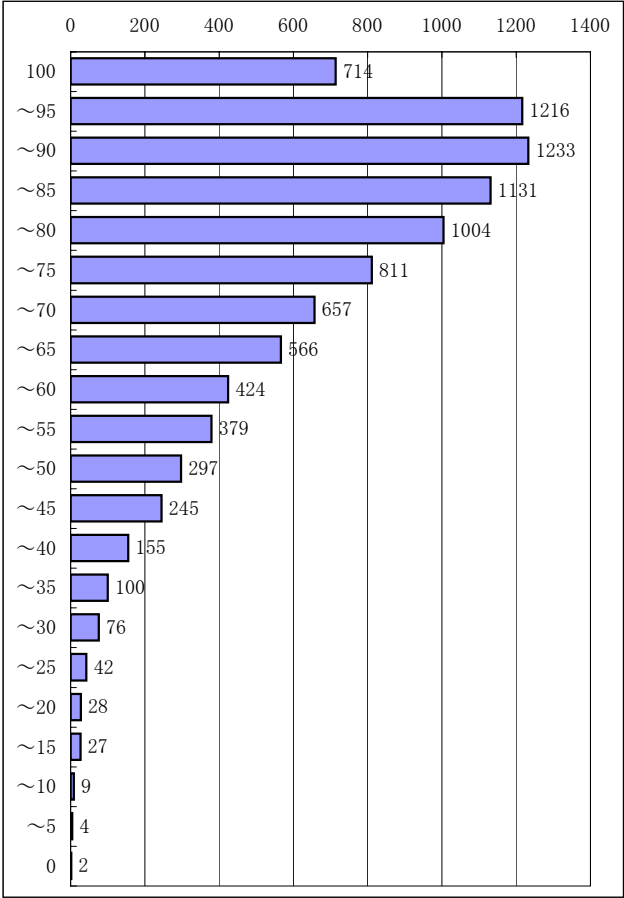
小学校6年 社会

小問別反応率

通し番号	1(通過率)	2(誤答)	3(未記入)	4(未履修)
(1)	88.7%	11.2%	0.1%	0.0%
(2)	84.8%	15.1%	0.1%	0.0%
(3)	86.0%	13.9%	0.1%	0.0%
(4)	83.2%	14.4%	2.4%	0.0%
(5)	80.2%	19.6%	0.2%	0.0%
(6)	67.3%	30.8%	2.0%	0.0%
(7)	82.2%	16.2%	1.6%	0.0%
(8)	80.5%	18.1%	1.4%	0.0%
(9)	79.2%	19.3%	1.4%	0.0%
(10)	65.5%	34.2%	0.3%	0.0%
(11)	91.6%	8.3%	0.1%	0.0%
(12)	61.1%	38.8%	0.2%	0.0%
(13)	65.9%	31.8%	2.3%	0.0%
(14)	86.4%	13.5%	0.2%	0.0%
(15)	64.9%	34.4%	0.7%	0.8%
(16)	63.6%	36.2%	0.2%	0.8%
(17)	89.9%	8.5%	1.5%	0.8%
(18)	73.3%	23.4%	3.3%	0.8%
(19)	75.9%	23.8%	0.3%	0.8%
(20)	74.1%	25.8%	0.2%	0.8%

※4(未履修)を除いた解答類型1～3の合計を分母として
通過率を算出

通過率度数分布グラフ(人)



小問別通過率度数分布表(校)

以上 未満	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)	平均 通過率
100%	20	22	8	18	3	0	3	4	3	0	14	0	9	8	0	1	20	4	4	1	0
95～100%	26	23	18	26	7	1	7	7	9	1	40	0	18	19	0	0	31	11	6	0	0
90～95%	47	35	30	35	10	8	30	23	14	6	52	2	28	40	2	4	45	24	14	4	5
85～90%	31	34	44	21	25	7	38	28	24	4	37	5	18	40	9	4	30	11	26	18	14
80～85%	16	16	33	15	49	11	29	39	30	12	14	6	10	27	6	12	20	23	24	22	36
75～80%	12	13	17	15	35	20	31	36	35	19	5	9	6	20	19	16	11	21	22	35	57
70～75%	3	6	9	10	27	21	9	16	31	16	3	17	10	7	22	11	3	13	21	28	35
65～70%	1	0	6	8	5	36	11	5	12	28	1	27	8	3	21	28	4	12	16	30	11
60～65%	6	6	1	8	4	19	6	3	7	22	1	24	4	2	32	24	1	10	10	20	8
55～60%	3	2	1	5	2	17	3	1	2	21	0	18	3	1	20	28	0	10	10	5	1
50～55%	2	7	0	2	0	15	0	1	0	18	0	25	5	0	16	21	1	10	5	2	0
45～50%	0	2	0	3	0	2	0	0	0	14	0	15	3	0	12	9	0	4	3	0	0
40～45%	0	0	0	1	0	2	0	2	0	4	0	11	5	0	4	4	0	2	1	1	0
35～40%	0	0	0	0	0	6	0	1	0	1	0	3	3	0	1	3	0	5	1	0	0
30～35%	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	4	6	0	1	1	0	1	2	0	0
25～30%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	8	0	1	0	0	3	1	0	0
20～25%	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	6	0	0	0	0	2	0	0	0
15～20%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0
10～15%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0
5～10%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0
0～5%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	1	1	1	1	1	1	0
計	167	167	167	167	167	167	167	167	167	167	167	167	167	167	167	167	167	167	167	167	167

※1学年20人以上データを提出した学校

小学校 6 年 社会 調査結果の考察

(1) 設定通過率との比較

	全体	観 点 別			内 容 別		
		思考・判断	技能・表現	知識・理解	産 業	国 土	歴 史
問 題 数	2 0	7	6	7	8	2	1 0
+ 10%以上	3	0	0	3	0	1	2
± 10%内	1 3	4	5	4	8	1	4
- 10%以下	4	3	1	0	0	0	4

(2) 考察

全体について

ア 基礎的な学力の定着状況は良好である。

成果

ア 地図帳や年表を活用する力が付いている。

イ 過去に出題され通過率が低かった内容については改善が図られている。

課題

ア 複数の資料を活用して、考えて判断したり、分かったことや考えたことを自分の言葉で表現したりする力が不十分である。

イ 歴史的事象の意味や働きについての理解が不十分である。

(3) 今後の指導

ア 調べた事実(見えること)を根拠にしながら、社会的事象の意味や働き(見えないこと)を様々な立場からとらえたり、広い視野から考えたりする学習を充実させる。

ポイント [(13を例として)]

歴史的事象の意味や働きを理解するための年表の活用

思考の過程や操作が見える板書

身に付けさせたい力が付いたときの姿の具体化

具体例

・提示する年表

年	で き ご と
710	・奈良に都を移す
735～737	・ききんが起きたり、伝染病がはやったりする
740	・貴族の反乱が起こる
741	・国ごとに国分寺をつくることを命じる
743	・大仏をつくることを命じる
752	・大仏が完成する

・板書の構成の例

調べたこと	分かること
・都を移す	天皇の強い力
・ききん、伝染病、反乱	心配事をしずめたい
・国ごとに国分寺	仏教が全国に広まった
・大仏をつくる	仏教の力を信じた

・「身に付けさせたい力が付いたときの姿」を具体化した児童のまとめ(例)

聖武天皇が、仏教の力を使って、病気や反乱などがしずまることを願っているいろいろなことを行いました。例えば、都には大仏を作ったり、全国には国分寺を作ったりしたことが分かりました。

つまり、このころは天皇が強い力を持ち、命令が全国に及んでいたということです。

歴史的事象の意味や働きを理解するために、年表を活用し、その歴史的事象の時代的な背景や原因となるできごとなどを丁寧に探していく。必要に応じて個々のできごとについて詳しく調べてみる。

調べたことや発言内容を分類・整理し、キーワードを考えながらまとめていく。この過程が、調べたこと(見えること)から社会的事象の意味(見えないこと)を見い出すために重要であり、この過程への児童の参加が欠かせない。また、思考の過程や操作が目で見えて分かるように、「例えば」(具体)や「つまり」(抽象)といった語を用いたり、関連する内容を矢印で結ぶなどの板書やノートづくりの工夫が必要である。単元のまとめを、児童自身に書かせる活動が重要である。その際、最初は書き出しや文末を指定したりキーワードを示したりし、その後は、児童の実態に応じて、徐々に自力でまとめさせるようにする。また、工夫されたまとめを取り上げ、モデルとすることも有効である。

身に付けさせたい力が付いたときの姿を具体化する。例えば、どのようなまとめを書くことができればいいのかを最初に明確にする。これが、具体的評価規準の一つとなる。


平成20年度中学校学習状況調査 第1学年 社会 評価規準と評価の観点

学年・分野	内 容	評 価 規 準	通し 番号	観 点		
				思考 ・ 判断	技能 ・ 表現	知識 ・ 理解
小学校 第6学年	(2)	・日本国憲法の基本的な考え方について理解している。	(1			
	(2)	・国民の祝日に関心をもち、憲法記念日の意義について考えている。	(2			
	(3)	・国際協力に関する資料から、事実を具体的に読み取っている。	(3			
中学校 地理的 分野	(1) ア	・地球儀や世界地図を活用して、簡単な時差の計算をしている。	(6			
	(1) ア	・主な国々の名称と位置、世界の地域区分を理解し、その知識を身に付けている。	(7			
	(1) イ	・都道府県の位置と名称を理解し、その知識を身に付けている。	(4			
	(1) イ	・日本の相対的位置について適切に考察している。	(5			
	(2) ア	・身近な地域を目的に応じて適切に調べる方法を考えている。	(8			
	(2) ア	・身近な地域を聞き取り調査する手順を理解している。	(9			
	(2) ア	・身近な地域をとらえるために、地図などから学習に役立つ情報を適切に読み取っている。	(10			
	(2) ア	・身近な地域の地理的事象を基にして、適切に考察している。	(11			
小学校 第6学年	(1) カ	・明治天皇の名による五箇条のご誓文が發布されたことを理解している。	(12			
	(1) カ	・欧米の文化を取り入れたことにより人々の生活が大きく変化したことを理解している。	(13			
	(1) カ	・明治維新が、我が国の国家、社会の発展に果たした役割を考え、適切に判断している。	(14			
中学校 歴史的 分野	(1) ア	・我が国の歴史について、時代の大きな移り変わりを考察している。	(15			
	(1) ア	・年代と世紀の関係を理解している。	(16			
	(2) イ	・大和朝廷による統一を通して、歴史の流れと時代の特色を多面的に考察している。	(17			
	(2) イ	・国家が形成されていく過程のあらましに関する考古学の成果や文献などの資料を収集し、活用している。	(18			
	(2) ウ	・天皇・貴族の政治が展開されたことを、我が国の歴史とかかわる東アジアの歴史を背景に理解している。	(19			
	(2) エ	・文化の国風化が進んだことを理解している。	(20			

中学校1年 社会 小問別通過率と設定通過率

平均通過率 67.1%

通し 番号	出 題 内 容	通過率 (%)	設 定 通過率 (%)	0%100%
(1)	日本国憲法の基本的な原則	86.5%	80.0%	
(2)	国民の祝日の意義	56.9%	75.0%	
(3)	我が国の国際協力についての資料の読み取り	81.3%	75.0%	
(4)	都道府県の位置と名称	83.6%	75.0%	
(5)	日本の位置の表し方	65.3%	65.0%	
(6)	経度と時差の関係	59.1%	60.0%	
(7)	赤道と主な国の位置	66.6%	65.0%	
(8)	身近な地域の調査方法	86.4%	80.0%	
(9)	身近な地域の調査手順	89.7%	65.0%	
(10)	身近な地域の地図の読み取り	94.8%	80.0%	
(11)	身近な地域についての資料を基にした考察	58.7%	60.0%	
(12)	五箇条の御誓文の内容	64.2%	70.0%	
(13)	明治初期の社会の様子	52.0%	65.0%	
(14)	明治維新の役割の考察	75.0%	75.0%	
(15)	幕府の所在地の移り変わり	49.0%	75.0%	
(16)	年代と世紀の関係	60.9%	65.0%	
(17)	大和朝廷による統一の様子	73.3%	65.0%	
(18)	国家の形成に関する文献の読み取り	60.6%	75.0%	
(19)	平安京とかかわる東アジアの歴史	52.6%	65.0%	
(20)	国風文化の特色	26.3%	65.0%	

※  は設定通過率±10%を示している。

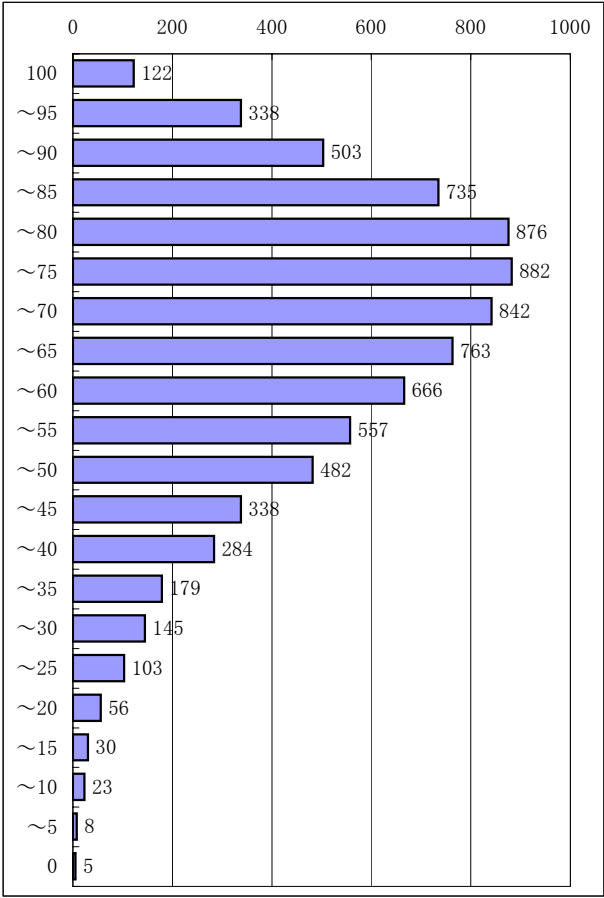
中学校1年 社会

小問別反応率

通し番号	1(通過率)	2(誤答)	3(未記入)	4(未履修)
(1)	86.5%	13.5%	0.1%	0.0%
(2)	56.9%	42.7%	0.4%	0.0%
(3)	81.3%	15.9%	2.8%	0.0%
(4)	83.6%	13.7%	2.7%	0.0%
(5)	65.3%	26.5%	8.2%	0.0%
(6)	59.1%	40.0%	0.9%	0.0%
(7)	66.6%	32.4%	0.9%	0.0%
(8)	86.4%	13.4%	0.2%	0.0%
(9)	89.7%	10.1%	0.2%	0.0%
(10)	94.8%	5.0%	0.2%	0.0%
(11)	58.7%	40.5%	0.7%	0.0%
(12)	64.2%	35.7%	0.2%	0.0%
(13)	52.0%	47.7%	0.3%	0.0%
(14)	75.0%	24.6%	0.4%	0.0%
(15)	49.0%	50.5%	0.5%	0.3%
(16)	60.9%	36.6%	2.5%	0.3%
(17)	73.3%	26.3%	0.4%	0.3%
(18)	60.6%	39.0%	0.4%	0.3%
(19)	52.6%	46.9%	0.5%	0.3%
(20)	26.3%	57.9%	15.8%	0.3%

※4(未履修)を除いた解答類型1～3の合計を分母として
通過率を算出

通過率度数分布グラフ(人)



小問別通過率度数分布表(校)

以上 未満	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)	平均 通過率
100%	1	0	2	8	0	0	0	0	1	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
95～100%	10	0	5	17	0	0	2	2	19	54	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0
90～95%	29	1	17	22	2	2	3	28	35	31	0	1	0	0	0	7	3	0	0	0	0
85～90%	37	0	23	16	3	1	7	49	45	14	2	0	0	7	1	9	2	0	0	0	0
80～85%	21	0	28	24	7	5	13	30	12	2	10	6	0	19	0	7	12	2	1	0	1
75～80%	10	4	16	8	14	6	13	7	3	0	5	7	0	37	1	9	29	3	0	0	10
70～75%	6	3	12	8	24	10	13	1	2	0	11	15	2	29	3	9	38	9	4	0	21
65～70%	0	10	7	1	16	13	16	0	0	0	9	24	9	19	3	8	18	17	12	1	47
60～65%	2	22	4	4	12	23	15	0	0	0	14	26	13	4	8	8	12	24	17	0	29
55～60%	1	24	2	5	17	15	15	0	0	0	18	19	26	2	10	5	2	30	21	1	9
50～55%	0	30	1	4	9	21	6	0	0	0	18	6	19	0	24	9	0	22	18	3	0
45～50%	0	14	0	0	7	11	7	0	0	0	11	10	19	0	24	10	0	5	16	8	0
40～45%	0	5	0	0	3	6	3	0	0	0	6	2	11	0	20	9	0	3	13	9	0
35～40%	0	2	0	0	3	2	4	0	0	0	9	1	11	0	11	7	0	1	7	10	0
30～35%	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	4	0	7	7	0	0	4	17	0
25～30%	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	2	0	4	7	0	0	2	20	0
20～25%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	15	0
15～20%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	12	0
10～15%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	13	0
5～10%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0
0～5%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	5	0
計	117	117	117	117	117	117	117	117	117	117	117	117	117	117	117	117	117	117	117	117	117

※1学年20人以上データを提出した学校

中学校 1 年 社会 調査結果の考察

(1) 設定通過率との比較

	全体	観 点 別			内 容 別		
		思考・判断	技能・表現	知識・理解	小学校	地理的分野	歴史的分野
問 題 数	2 0	7	4	9	6	8	6
+ 10 % 以上	2	0	1	1	0	2	0
± 10 % 内	1 2	5	2	5	4	6	2
- 10 % 以下	6	2	1	3	2	0	4

(2) 考察

全体について

ア 平均通過率から見ると、おおむね良好な状況にあるといえる。

イ 「社会科が大好き・好き」と答える生徒が多い。

成果

ア 地理的分野に関する知識や技能の定着が図られている。

イ 調査方法、手順など「学び方」が身に付いている。

課題

ア 複数の資料を活用して思考する力が不足している。

イ 基本的な知識が定着していない部分がある。

(3) 今後の指導

ア 問題解決的な学習の過程において、複数の資料を比較したり関連付けたりしながら思考させていくことで、見方や考え方を深める。

ポイント [(11) を例として]

「比較」「関連付け」による思考

資料に基づく論理的な推考

具体例

- 資料 2 と資料 3 を関連付け、他の市町村へ通学する高校生の人数は 618 人よりも少ないと推測できることを確認する。次に、そのことと資料 1 を関連付けることにより、高校生の通学による人口移動は、昼間人口が減少する主たる要因とはいえないことに気付かせる。
- 資料 1 から昼間人口が減少している要因について「他の市町村へ通勤している人が多いため」等の予想をもたせる。その上で、資料 4 をもとに、予想の妥当性を論理的に推考させる。

資料 1 昼夜間人口

夜間人口	20853 人
昼間人口	17840 人

資料 2 町の児童生徒数

小学生	1097 人
中学生	593 人
高校生	618 人

資料 3 町にある学校数

小学校数	4 校
中学校数	2 校
高校数	1 校

資料 4 町の景観

- ・水田や畑が少ない
- ・工場は四つあるが規模は大きくない
- ・宅地の割合が多い
- ・道路や公園が計画的につくられている

左記 の事項は、問題解決的な学習をより一層推進していく中で身に付けさせていくべきものである。学習課題について予想し、確かめるための資料等を収集する。収集した資料を比較・関連付けて解釈したり、組み合わせで自分の考えを論じたりする学習により、複数資料を活用した思考が深まる。

「比較して考える」とは、ある視点に着目して見比べ、共通点や違いを発見し、そこから特色や意味を考える思考である。

「関連付けて考える」とは、目には見えにくい事象と事象の間のつながりに着目し、その間にあるものを発見したり、「～だから～である」といった論理的な関連性を見出したりする思考である。

平成20年度中学校学習状況調査 第2学年 社会 評価規準と評価の観点

分野	内 容	評 価 規 準	通し 番号	観 点		
				思考 ・ 判断	技能 ・ 表現	知識 ・ 理解
地 理 的 分 野	(1) ア	・主な国々の名称と位置を理解している。	(1			
	(1) ア	・時差の求め方を筋道を立てて説明している。	(2			
	(1) イ	・正距方位図法の地図の特質を踏まえて、適切に読み取っている。	(3			
	(1) イ	・日本の国土の位置について、地球規模で大観し考察している。	(4			
	(2) イ	・都道府県の地域的特色を示した数値資料から、秋田県を適切に判別している。	(5			
	(2) イ	・都道府県の地域的特色を示した複数の数値を比較・関連付けて読み取っている。	(6			
	(2) イ	・都道府県の位置を多面的に理解している。	(7			
	(2) イ	・都道府県に関する資料を関連付けて読み取り、適切に考察している。	(8			
	(2) ウ	・世界の国々の地域的特色を考察するために、必要な情報を適切に選択している。	(9			
	(2) ウ	・世界の国々の地域的特色を示した複数の数値を関連付けて適切に読み取っている。	(10			
歴 史 的 分 野	(3) ア	・武家社会の展開に関する様々な資料を収集し、適切に選択して活用している。	(11			
	(3) ア	・武家社会の展開を理解するとともに、その知識を身に付けている。	(12			
	(4) イ	・織田・豊臣による統一事業と対外関係のあらましを通して、時代的特色を多面的に考察している。	(13			
	(4) イ	・豊臣の時期の政治の大きな変化を理解するとともに、その知識を身に付けている。	(14			
	(4) ウ	・江戸幕府の大名統制の様子を理解している。	(15			
	(4) ウ	・参勤交代に関する文献資料を活用するとともに、考察した結果を適切に説明している。	(16			
	(4) ウ	・江戸幕府の農民統制の様子を理解している。	(17			
	(4) ウ	・江戸幕府の身分制度の確立を通して、幕府の政治の特色を考察している。	(18			
	(4) エ	・江戸時代を通じた産業の発達を代表的な事例を取り上げて多面的に考察している。	(19			
	(5) イ	・明治維新の経緯のあらましを理解するとともに、その知識を身に付けている。	(20			

中学校2年 社会 小問別通過率と設定通過率

平均通過率 64.0%

通 し 番 号	出 題 内 容	通 過 率 (%)	設 定 通 過 率 (%)	0%100%
(1)	主な国々の名称と位置	83.7%	80.0%	
(2)	時差の求め方	68.0%	70.0%	
(3)	世界地図の適切な活用	90.5%	80.0%	
(4)	日本の国土の位置	41.4%	60.0%	
(5)	都道府県別の資料を基にした考察(秋田県の判別)	54.9%	65.0%	
(6)	都道府県別の資料の読み取り	70.8%	65.0%	
(7)	都道府県の位置と日本の地域区分	68.9%	65.0%	
(8)	都道府県についての資料を関連付けた考察	75.3%	65.0%	
(9)	世界の国々に関する資料の適切な選択	82.7%	80.0%	
(10)	世界の国々に関する資料の読み取り	87.3%	80.0%	
(11)	足利義満に関する資料の活用	39.1%	60.0%	
(12)	分国法の内容	22.9%	70.0%	
(13)	織田・豊臣による統一事業の分類	65.2%	65.0%	
(14)	豊臣期の政策	76.0%	75.0%	
(15)	参勤交代の目的に関する資料の活用	47.7%	65.0%	
(16)	江戸幕府の農民統制	49.4%	70.0%	
(17)	江戸時代の身分制度	60.2%	70.0%	
(18)	身分制度の統計資料の読み取り	74.0%	85.0%	
(19)	江戸時代の農業の特色	46.8%	60.0%	
(20)	富国強兵の具体例	75.4%	70.0%	

※ は設定通過率±10%を示している。

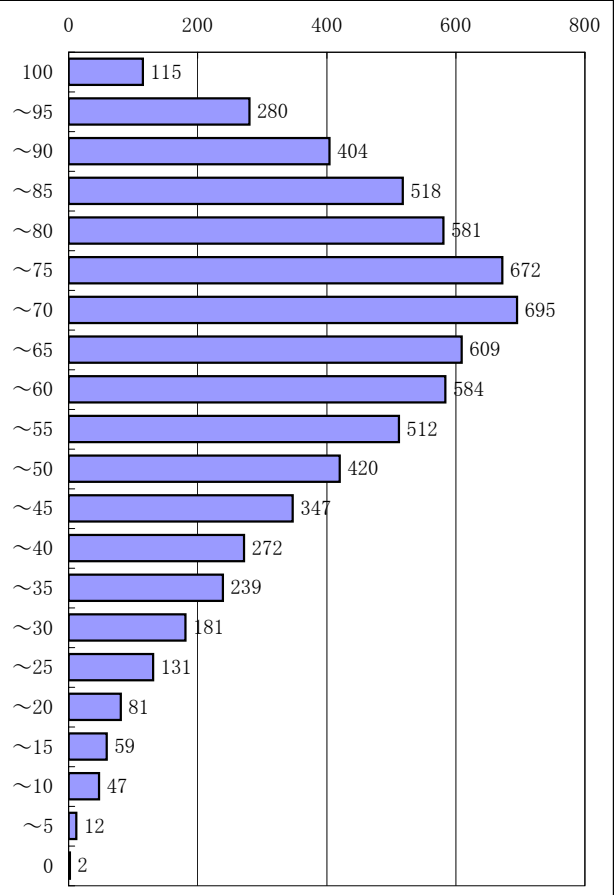
中学校2年 社会

小問別反応率

通し番号	1(通過率)	2(誤答)	3(未記入)	4(未履修)
(1)	83.7%	15.5%	0.7%	0.0%
(2)	68.0%	31.6%	0.4%	0.0%
(3)	90.5%	8.9%	0.6%	0.0%
(4)	41.4%	58.1%	0.5%	0.0%
(5)	54.9%	44.5%	0.6%	0.0%
(6)	70.8%	28.8%	0.4%	0.0%
(7)	68.9%	30.9%	0.2%	0.0%
(8)	75.3%	17.0%	7.8%	0.0%
(9)	82.7%	16.7%	0.6%	0.0%
(10)	87.3%	11.6%	1.1%	0.0%
(11)	39.1%	59.8%	1.1%	0.0%
(12)	22.9%	61.0%	16.1%	0.0%
(13)	65.2%	34.5%	0.3%	0.0%
(14)	76.0%	23.6%	0.4%	0.0%
(15)	47.7%	32.4%	19.9%	0.0%
(16)	49.4%	50.2%	0.4%	0.0%
(17)	60.2%	39.5%	0.3%	0.0%
(18)	74.0%	25.2%	0.8%	0.0%
(19)	46.8%	44.2%	8.9%	0.0%
(20)	75.4%	24.2%	0.4%	0.0%

※4(未履修)を除いた解答類型1～3の合計を分母として
通過率を算出

通過率度数分布グラフ(人)



小問別通過率度数分布表(校)

以上 未満	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)	平均 通過率
100	2	0	9	0	0	0	0	0	1	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
95～100%	6	1	24	0	0	0	0	1	5	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0
90～95%	11	4	44	0	0	0	0	6	13	23	0	0	1	6	2	1	0	2	0	9	0
85～90%	27	3	19	0	0	4	3	7	24	25	0	0	2	11	0	2	0	9	2	11	0
80～85%	28	12	6	0	0	6	3	19	23	19	0	0	4	18	2	0	2	14	2	12	2
75～80%	22	15	0	0	5	23	13	23	20	13	0	1	12	24	3	1	5	31	5	18	4
70～75%	4	8	0	1	1	32	27	12	11	4	0	0	12	27	3	6	7	18	7	19	7
65～70%	2	24	0	1	8	22	26	16	5	0	0	1	17	9	5	10	15	11	5	12	32
60～65%	0	13	0	1	21	8	21	9	0	0	3	0	23	5	7	4	24	12	11	8	36
55～60%	0	15	0	9	16	5	6	8	0	0	4	2	18	1	6	5	20	4	6	6	16
50～55%	0	5	0	13	25	1	2	0	0	0	8	3	9	1	15	16	15	1	10	0	5
45～50%	0	1	0	14	15	1	1	1	0	0	10	2	3	0	19	6	5	0	4	1	0
40～45%	0	0	0	17	6	0	0	0	0	0	16	4	1	0	13	20	7	0	7	1	0
35～40%	0	1	0	29	4	0	0	0	0	0	28	8	0	0	7	13	2	0	11	1	0
30～35%	0	0	0	16	1	0	0	0	0	0	16	9	0	0	8	10	0	0	11	0	0
25～30%	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	9	9	0	0	8	5	0	0	8	0	0
20～25%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	10	0	0	1	1	0	0	5	0	0
15～20%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	10	0	0	3	2	0	0	6	0	0
10～15%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	0	0	0	0	0	0	1	0	0
5～10%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	0	0	0	0	0	0	1	0	0
0～5%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	102	102	102	102	102	102	102	102	102	102	102	102	102	102	102	102	102	102	102	102	102

※1学年20人以上データを提出した学校

中学校2年 社会 調査結果の考察

(1) 設定通過率との比較

	全体	観 点 別			内 容 別	
		思考・判断	技能・表現	知識・理解	地理的分野	歴史的分野
問 題 数	20	7	6	7	10	10
+10%以上	2	1	1	0	2	0
±10%内	10	2	3	5	6	4
-10%以下	8	4	2	2	2	6

(2) 考察

全体について

- ア 全体的には設定通過率を下回るものが多いなど、改善すべき点が多い。
- イ 観点別では「技能・表現」についてはおおむね良好な状況であるが、「思考・判断」と「知識・理解」については課題が見られる。

成果

- ア 資料を読み取る、選択するなどの資料を活用する力が付いてきている。
- イ 昨年度より「社会科が大好き・好き」と答える子どもの割合が高くなっている。

課題

- ア 資料を活用して思考する力や、条件に応じて表現する力が不足している。
- イ 歴史の流れをとらえることや社会的事象の知識の定着に課題がある。

(3) 今後の指導

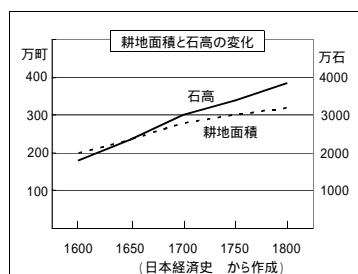
- ア 資料を活用して思考する力や、条件に応じて表現する力を育てるために、資料から読み取ったことを基に思考する学習の一層の充実を図る。
- イ 学習のまとめを条件に応じて文章化する学習や作業的な学習を充実させる。

ポイント〔(19を例として)〕

「読み取り」から「解釈」への展開
文章化とキーワード化

具体例

- ・ 右のグラフの二つのデータを比較し、違いを読み取らせる。
- ・ 次にデータを関連付けて「耕地面積の拡大よりも、石高の増加



の割合が高いのは、農業技術の進歩により単位面積あたりの収量が多くなったからではないか」というような予想をさせ、自分なりの資料の解釈をさせる。

- ・ 学級で予想を出し合い、まとめて本時の学習問題にし、追究させる。
- ・ 予想を裏付ける資料を収集して整理し、資料を根拠にした考えを基に、話し合わせる。
- ・ 話し合っ得た結論を文章化して次のようにノートにまとめさせる。その際、新田という語は必ず使うことと、学習問題の結論を書くように指示する。

- ・ 江戸時代には新田の開墾がさかんに行われ、耕地面積が広がった。
- ・ 新しい農法や農具が考え出され、農作業の効率が上がり、生産力が向上した。
- ・ 耕地面積の拡大の割合よりも生産高の増加割合が大きい。

日常の学習においては、調べたり読み取ったりした「事実」と、考察、推論した「解釈」とを区別し、事実を根拠に解釈を述べる学習を大切にしたい。そのためには、「読み取り」をさせるのか、「解釈」を述べさせるのか明確にした発問や的確な指示が必要である。授業者は「考えたこと」や「分かったこと」を安易に用いず、吟味することが大切である。このことは読解力を高めることにもつながる。

考察したことを述べたり、学習のまとめをしたりする際は、文章でまとめる活動を取り入れる。歴史では、その時代の特色を整理し、キーワードを用いて、大きな流れを説明できるようにする。地理では、調査結果だけではなく、調査の方法や手順についても分かりやすく説明できるようにする。なお、学習問題に対する結論となるように表現させるなど、記述の仕方に条件を付けることが大切である。

基礎的な内容の定着を図るために、作業的な学習を日常的に行う。年表を使った表現は効果がある。